

防災・減災に向けて④

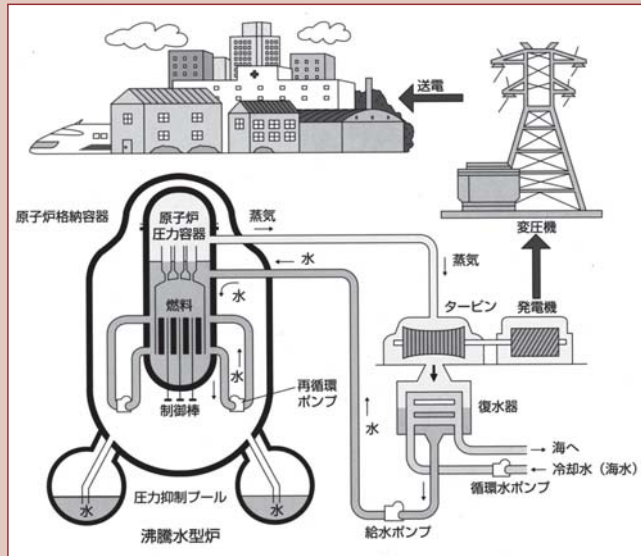
今月号では、原子力災害対策に関連して、原子力発電のしくみなどについてお知らせします。

原子力発電のしくみ

原子力発電所では、原子炉でウラン235等が核分裂するときに出る熱エネルギーを利用して蒸気をつくり、タービンをまわして電気をおこします。

日本で使用されている原子炉は軽水炉と呼ばれるもので、この軽水炉には沸騰水型炉（BWR）と加圧水型炉（PWR）の2種類があります。

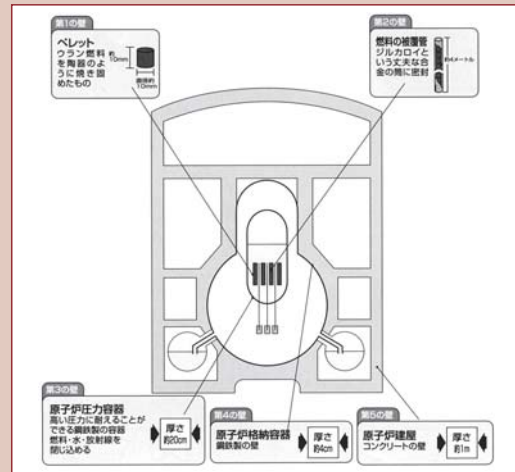
女川原子力発電所の原子炉は、すべて沸騰水型炉（BWR）です。



放射線・放射能を閉じ込める5重の壁

ウラン燃料の核分裂により、原子炉の中には大量の放射性物質（核分裂生成物）ができますが、原子力発電所ではこの放射性物質や放射線を閉じ込めるために、5つの壁が設けられています。

福島第一原子力発電所事故では、これらの壁が有効に機能しない状況となりました。



各出展「知ろう・学ぼう 原子力と放射線」
（宮城県環境生活部原子力安全対策課：平成25年3月発行）

問い合わせ 危機管理課 ☎46-1376



消火訓練

入谷小の脇で山火事という想定で
実際に119番通報

防災の日である9月1日（日）午前7時から午前8時まで、町全域を対象とした地震・津波防災訓練が実施されました。

今年度の訓練は、東日本大震災と同じ規模の災害が発生したとの想定の下、各行政区・仮設住宅団地において「家族・ご近所の安否の確認」や「より高い場所への避難」などといった活動が行われたほか、入谷小学校仮設住宅団地では、実際に燃え盛る炎をご家庭にある粉末消火器を使って消火するといった訓練も行われました。

また、防災関係機関の訓練では、気仙沼海上保安署巡視艇による避難広報訓練、消防団の10分前ルール（津波到達予想時刻の10分前には消防団も避難を完了するといったルール）による退避訓練のほか、町の区域の一部がUPZ（原子力災害対策における緊急時防護措置準備区域）に含まれたことに伴う原子力発電所との通信訓練などが行われました。